

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0791400013		
法人名	株式会社 マインド		
事業所名	グループホームまいんど万世		
所在地	本宮市本宮字万世137-5		
自己評価作成日	平成28年9月26日	評価結果市町村受理日	平成29年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成28年11月9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様の個々の「思い」を察知し、その思いを大切に寄り添う支援を日々行なっています。  
 社会資源を活用し、地域とのお互いの交流・関わりを持ちながら楽しく過ごせるよう支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1、利用者の個性や暮らしを重視しながら職員全体でアセスメントシケアプランを作っている。また支援にあたっては、利用者とのコミュニケーションを通し、本人のエピソードの把握に努めるとともに感情面の観察などを通し利用者理解に努め、24時間体制で切れ目なく関わっている様子が伺える。  
 2、地域の行事や事業所のイベント、避難訓練などを通し、地域との付き合いが行われている。また、利用者も認知症カフェに出かけたり、ボランティアの受け入れや隣接の小規模多機能型居宅介護に通ってくる利用者と日常的に交流するなど生活に変化と楽しみが持てるような支援をしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念や毎年の事業所目標に地域密着サービスに対しての項目を入れ、どのように取り組んでいくか、スタッフ会議などを通して検討している。	法人理念、社是などを尊重しながら職員で検討し作り上げた事業所理念、年度目標を共有している。実践に向けた検討を職員会議で行い具体的な実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やふれあいサロンへの参加、地域の児童館の子供たちとの交流、地域の方のボランティア受入れを積極的に行っている。また、地域の方々に事業所の行事に参加して頂いたり清掃活動に参加している。今年度、地域交流の場として、地域交流公園まいんどパークをオープンさせた。	地域の行事などに利用者が参加するほか、事業所のイベント、避難訓練などに近隣の参加がある。また併設の小規模多機能型居宅介護事業所の利用者とも日々交流が行われている。さらに法人が造成した「まいんどパーク」に近隣から利用があり開かれた事業所となりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイト養成講座を受けたスタッフが、運営推進会議で認知症についてのテーマを取り上げ話し合いを行い、地域の方へ認知症の方の理解をして頂く機会を作っている。認知症カフェの場所の提供もしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	事業所からの取り組み報告だけでなく、毎回テーマを決めご家族や委員の方から、意見や提案を頂き、ケアやホームの改善に心掛けている。新町内会長様からも、率直な意見を頂いている。	運営推進会議は利用者家族全員に参加を呼びかけ家族の意見を聞く機会にもなっている。地域代表や地域包括支援センターから避難訓練などで活発な意見が出されスロープにすべり止めをするなど運営に活かされている。ヒヤリハットなど利用者のリスク面は議題にあげていない。	利用者のヒヤリハットなども原因分析や対応策を検討し、運営推進会議で話し合い率直な意見をいただくことも望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定申請の代行や書類提出などで窓口に出向き、その際に市の担当の方に、アドバイスを頂いたりしている。また、本宮市認知症ケア連絡協議会へ加入し地域密着型サービス事業所間の連携を図りながら、研修を企画するなど協力をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げ、身体拘束は行っていない。居室と玄関に鍵をかけないケアを実践し精神的負担とならない様に利用者との関わりを持っている。帰宅願望は無理に引き止めずさりげなく見守っている。利用者様のリスクを家族に連絡している。	利用者の生活を第一に優先したケアが実践されており、自由を奪う、或いは行動を拘束しない工夫がされている。特に帰宅願望のある利用者には丁寧に接し、家族との事前了解のもとその対応の協力を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	目に見える拘束や虐待だけでなく、言葉による拘束や虐待について、社内外の研修会に参加して学んだりスタッフ会議等で話し合う機会を設け日常的にその防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の活用が必要と思われる利用者については、地域包括や社協の担当の方やご家族と話し合い、活用し支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約内容や重要事項内容について十分な説明を行うよう心がけている。また、介護保険改正の利用料金改定についても十分な説明を行うようにしている。不安や疑問点があれば十分なご理解・納得を得られるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については、日常の様子や表情などから思いを読み取るように心掛けている。ご家族からは、面会時など話し易い雰囲気を作るよう心掛け、意見箱やアンケート、ご家族連絡メモを活用しご意見があった時には事業所内で検討し運営に反映している。	意見箱には苦情など入らないが、家族来訪時の挨拶や利用者をケアする際の事前の声掛け等について要望があり、接遇研修を行うほか職員会議で話し合い改善に努めている。さらに家族アンケートで意見を聞き運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にスタッフ会議を開催し、代表者や所長とスタッフとの話し合いの時間を設けている。日常業務の中でも随時話し合いを行なうなど、早目の対応を心掛けている。	管理者が職員面談を行い意見を聞いている。事業所では対応できないものは本社に上げ検討している。休暇なども職員の希望に応じ対応するほか人事異動面でも個人の事情に配慮している。ストレス対応への要望があり外部講師による研修も開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援や資格手当での支給、今年度より永年勤続者の表彰、リフレッシュ休暇の取得等も導入している。また、勤務時間についても出来る限り考慮するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の社内研修や、委員会主催の研修会を実施し、より多くのスタッフが研修を受けられるよう取組んでいる。また、スタッフの力量に合わせ社外研修も受講出来るようにしている。受講後は、スタッフ会議でも報告し職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の介護保険サービス事業所代表者打合せ会や研修会に参加し、他事業所の取り組みを聞いて、お互いの事業所についての取り組みを振り返る機会を設け交流を深めネットワーク作りなどに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望時にはホーム内を見学していただき様子や雰囲気を感じて頂き事前の交流により不安の軽減を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談があった時点から、ご家族からご本人の支援に対しての悩みや不安を聞きながら、事業所での支援方法について説明するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にセンター方式のシートをご家族に記入して頂くようにしている。その内容を参考にしながらご本人の現状をみて、必要としていることを早めに把握できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活歴や趣味、習慣をご家族からの情報や、本人との日々の関わりの中から把握し、それぞれの特技を役割として頂きお互いに助け合う関係を構築している。共に生活する家族のような関わりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	春祭りや納涼祭、芋煮会などご家族も参加できる行事を企画し参加してもらっている。通院への同行などご協力いただけるものは協力して頂き、体調や状態の変化は事あるごとにご家族に連絡、相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方や友人・知人の方も気軽に遊びに来れる様な雰囲気作りを心がけている。また、馴染みの方とホーム以外の場所でも会えるよう、自宅への送迎等も行っている。認知症カフェで、馴染みの方と会話をされている。	認知症カフェや地域のお祭りに出かける他、自宅へ送迎し家族と触れ合う機会を定期的に持ち馴染みの関係の継続に努めている。外出が困難な利用者も増え隣接の小規模多機能型居宅介護事業所の利用者と交流機会を持つなど工夫をしながら対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の様子から、それぞれのご利用者間の関係性を十分に把握し、上手くコミュニケーションが図れるよう、様子を見ながらスタッフが間に入るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族からボランティアの申し出があったり遊びに来て頂くなど、これまでの関係を大事にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	さりげない日常会話を通してご本人の意向や希望の把握ができるよう努めている。言葉を表出できない方からは、顔の表情や普段の行動などで思いを把握して、出来るだけ利用者本位になるようなケアを行っている。	日常的な利用者とのコミュニケーションから、その人の歩んできた人生経験、歴史などを聞き取るようにしている。また、利用者の感情面の観察をとおして、想いを察知するように努めている。職員全体が24時間体制でまんべんなく利用者に関わっている様子が伺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴や心身の状態などをご本人からの聞き取りや、ご家族から教えて頂いた(センター方式活用)情報や、これまで利用されていたサービスの担当者の方からの情報を参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昨日出来た事が今日出来るとは考えずに現状を見定めてケアに当たっている。利用者とのやり取りの中で心身の変化を捉えてケアに繋げて行けるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、各担当スタッフを中心に話し合いを実施し、出来る限りご本人の意向に添った介護計画を作成している。また、それぞれの期間ごとに見直しも実施し次の計画に活かしている。	センター方式を活用し、本人・家族を含めたチーム全体でアセスメントからケアプランを作っている。短期、長期目標の捉え方も、個別性を重視し、生活優先をしている。またモニタリングも時期・内容とも適切に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを中心とした個別記録となっているが、ケアプランの内容以外にも新たな気づきがあればその都度記入し、申し送りやスタッフ会議で情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や通院など必要な支援を、ご本人やご家族のその時の状況に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者それぞれの好みや得意分野を把握しながら、ボランティアの活用や、地域のふれあいサロンへの外出など、それぞれに合った支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後、かかりつけ医を変更する事になった場合は、ご本人やご家族が納得し安心して医療を受けられるような説明をしている。泌尿器科・眼科等の専門医の受診も必要時には施設での対応も行っている。	入居前のかかりつけ医との関係をそのままにする方法や、本人の症状に合わせて泌尿器科、眼科、歯科など利用者の状況に合わせ、訪問診療も含めた受診支援をしている。家族が対応できない場合は、送迎なども行い適切に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師の定期的な訪問により、利用者の健康チェックをしている。何か不安な事があればすぐに相談し、状況に応じて診てもらおう体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、病院の関係スタッフへ必要な情報を提供している。また、入院中も病院関係者やご家族に経過を聞きながら、協力できる事を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、重度化対応・終末期ケア対応指針を基に説明を行っている。入所後は、その状態に応じて事業所での話し合いやご家族との話し合いの場を設け、主治医に看取りも含め、今後の関わりについて相談をしている。	入居時に看取りケアについて事前承認を文書で交わし、場面毎に再度確認作業をしている。過去に3名の看取りケアを実施した。医師との協力体制も確立し、看護師も法人全体を巡回する体制をとっている。また事業所全体が慌たたくならないよう留意している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを見やすい場所に設置し、スタッフ会議等でも急変時の対応について確認し合っている。また、委員会主催の研修で救命救急の講習も行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に1回、定期的に消防署立会いの避難訓練を行っている。年に1回運営推進会議の議題に取り上げ訓練にも参加して頂いている。また、防災用品や食料等の備蓄品についても定期的に見直しを行い、必要なものを購入している。	消防署立会の避難訓練を年3回実施するほか独自の通報訓練や避難訓練を行っている。運営推進会議開催時に一緒に訓練を行うなど協力体制を築いている。水害等もハザードマップで確認し避難等の検討も行っている。非常時には法人の支援もあるが、事業所として3日分の水、食料を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いにはマニュアルを基に十分注意している。また、日々の中で排泄の有無を尋ねる際には、声のトーンを抑えるなど利用者のプライバシーを損ねる言葉使いや態度に気をつけるよう心掛けている。	挨拶やその他の言葉かけなど、個別性を重視したケアが実践されている。特に礼儀作法は利用者の方から教わることもあるようである。排泄ケアは声を潜めた気配りをしている。異性ケアについても確認をとっている。	事務室は施錠できるが、ケース記録収納ロッカーは施錠できない。情報の管理に工夫が必要である。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いくつかあるお菓子や外食メニュー、その日のレクリエーション選びなど、物事が複数ある場合は選択していただくように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操やレクリエーションを行い、声掛けはするが強制はしない。事業所内での過ごし方、散歩や買い物など、それぞれ個々のペースや希望に合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時、外出時の衣類の選択など、それぞれの希望に合った支援をしている。理・美容は、馴染みの美容師に訪問して頂き利用している方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	祝日・記念日などに行事食を作り、一緒に会話しながら食事をしている。外の畑やプランターと一緒に野菜を育てたり、ベランダで干し柿を作ったり、作ることから食べる事への楽しみにも繋げている。外食行事も企画している。	利用者は野菜の皮むきなどを職員と一緒に行う他、利用者と栽培した野菜を使うなど旬を取り入れ楽しく食べられるよう支援している。また、利用者の状況に応じ柔らかさや大きさを変えるなど美味しく安全に食べられるような配慮をしている。外食やお弁当等雰囲気を変える取り組みも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量のチェック表を活用しており、それぞれの利用者の摂取量が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方はそのまま見守り、できない方は洗面所まで誘導し自身で洗えるよう声掛けをしている。できない方は介助で行うが時折不穩もあり様子を見ながら時間をずらしたり職員が交代して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握しながらトイレの声掛けや誘導を行っている。不必要なオムツの着用は出来る限り避けるようにしている。	排泄ケアは一人ひとり個別的に状況をアセスメントして、オムツの種類を決め、定時誘導を実施している。排泄尿量などを観察し、脱水、便秘等の予防をしている。	利用者の状況にあわせてチームアップローチで「オムツ外し」に取り組めればさらにケアの質が上がると期待できる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操のレクや散歩などで運動の機会を作っている。また、普段から野菜を多く取り入れた食事作りに関心掛け便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行事がある場合等を除き、毎日入浴を実施している。好みの入浴剤を入れたり、ゆず湯や菖蒲湯などの季節の風呂等、出来るだけ利用者の希望に合わせた入浴の支援に取り組んでいる。浴槽に入りたくない時などは、シャワー浴にしている。	午前、午後の時間帯で、希望する入浴剤を入れ個別による入浴支援を行っている。入浴を拒否する利用者には時間帯や対応職員を変えて声掛けしている。浴室や脱衣室は床暖房で快適に入浴できるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて、日中の臥床時間や夜間の就寝時間を取って頂いている。夜間安眠できるよう、日中の活動内容も工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診し処方薬に変更があれば、その都度申し送りや管理日誌に記入している。症状に変化があれば介護記録に記入し全員が把握できるようにしている。誤薬予防の為、服薬助動マニュアルを周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や希望を把握しながらそれぞれに合った役割、楽しみを継続できるように支援している。様々なものを提供し、充実した生活を送って頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者個々の希望に合わせて、ウッドデッキでの外気浴、散歩や買い物、外食の支援をしている。また、季節を感じられるような花見や菊人形見学などの外出支援も行なっている。	法人が地域交流の場として隣接して作った公園に出かけたり、散歩や外気浴、外食、近隣の足湯や菊人形見学など車での外出支援が行なわれている。また、家族の協力により一時帰宅や墓参りなどの外出もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者、自己管理が難しい利用者との個人差があるため、個々の金銭管理能力に合わせた支援をしている。自己管理が出来る利用者には、買い物時に自分で払って頂けるような支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話は、本人に取り次ぎ、利用者からの希望があれば、家族や親戚の方への電話ができるよう支援している。手紙のやりとりも職員が手伝いながら行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる事の出来るような掲示物や飾り物を置くようにしたり、季節に合った生け花を飾ったりしている。	居間には床暖房、エアコン、加湿器が備えられ、快適に過ごせる環境となっている。利用者と職員が作った作品やボランティアによる生け花等がさりげなく飾られており、落ち着いた居心地良く生活できるものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にコタツを置いたり、リビング内にソファを置くことで、利用者同士で寛いだり、一人になれるような空間にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	ご家族に協力して頂き、馴染みの家具や、日用品、写真などを持ち込んで頂き、安心できる環境でその人らしく生活できるように支援している。	居室にはエアコン、クローゼット、ベットが備えられている。利用者は自宅からタンス、炬燵、テレビなど馴染みの物を持ち込むとともに家族の写真を飾り、本人らしい部屋づくりがされている。居室の清掃は職員が利用者と一緒にいる場合もあるが、利用者が出来ない場合は職員が行い清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを多く設置し、ホーム内には段差がないような作りになっている。トイレや浴室には場所名を表示しているが、居室の表示については自分の部屋が分からなくなってしまう方のみになっている。		